

パブリックコメントの結果報告について

- 1 計画名称 金ヶ崎周辺施設整備基本計画（原案）
- 2 募集期間 平成30年6月1日（金）から14日（木）まで（14日間）
- 3 募集方法 ①HPでの電子申請 ②メール ③郵送 ④FAX
⑤意見回収箱14箇所
（本庁1階、各公民館、プラザ萬象、
金ヶ崎周辺施設（ムゼウム、鉄道資料館、赤レンガ倉庫））
- 4 募集結果 58名の方からご意見が寄せられました。
（電子申請12件、メール1件、郵送1件、意見回収箱44件）

貴重なご意見をありがとうございました。
内容と対応は次頁のとおりです。

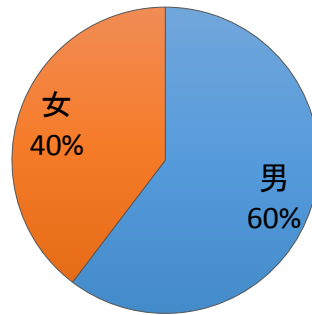
アンケート結果の詳細

総回答数 58件

(1) 回答者の属性

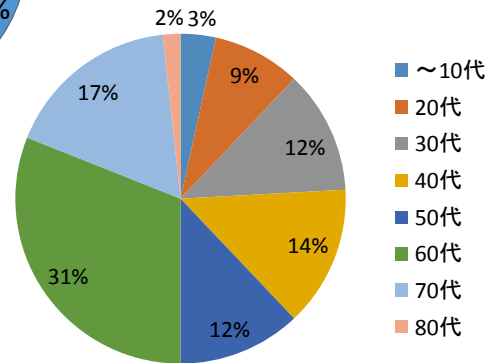
・性別

男性	35人	60%
女性	23人	40%



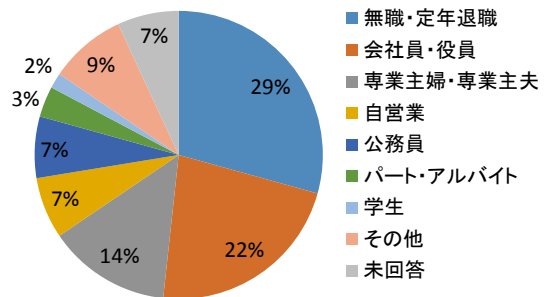
・年齢

～10代	20代	30代	40代
2人	5人	7人	8人
3%	9%	12%	14%
50代	60代	70代	80代
7人	18人	10人	1人
12%	31%	17%	2%



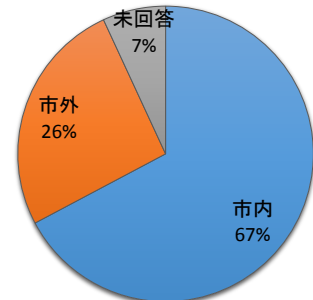
・職業

無職・定年退職	会社員・役員	専業主婦・専業主夫
17人	13人	8人
29%	22%	14%
自営業	公務員	パート・アルバイト
4人	4人	2人
7%	7%	3%
学生	その他	未回答
1人	5人	4人
2%	9%	7%



・居住地

市内	市外	未回答
39人	15人	4人
67%	26%	7%



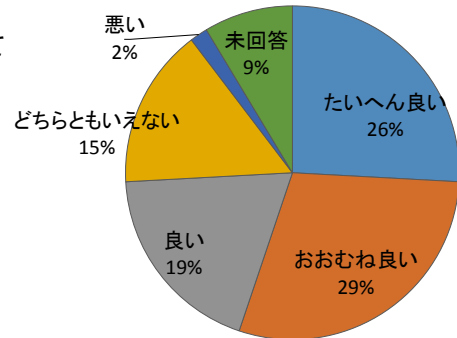
【市外】

- 県内
 - ・坂井市(2) ・美浜町
- 県外
 - ・岐阜県(5) ・埼玉県(2) ・山口県 ・石川県 ・長野県

(2) 設問への解答

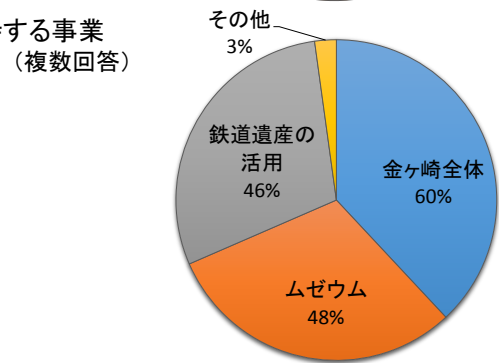
【問1】「金ヶ崎周辺施設整備基本計画(原案)」の印象について

たいへん良い	おおむね良い	良い
15人	17人	11人
26%	29%	19%
どちらともいえない	悪い	未回答
9人	1人	5人
15%	2%	9%



【問2】「金ヶ崎周辺施設整備基本計画(原案)」中、特に期待する事業

金ヶ崎周辺全体について	人道の港敦賀ムゼウムについて
35人	28人
60%	48%
鉄道遺産の活用について	その他
27人	2人
46%	3%

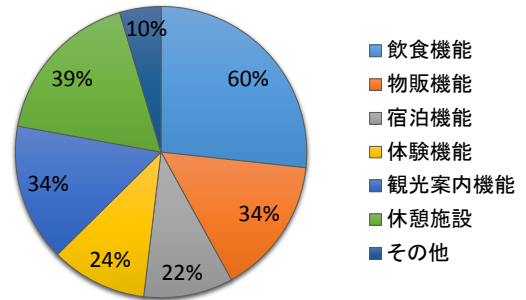


【その他】

・敦賀港線の活用 ・ソフト面の充実

【問3】金ヶ崎に必要な機能について(複数回答)

飲食機能	物販機能	宿泊機能	体験機能
35人	20人	13人	14人
60%	34%	22%	24%
観光案内機能	休憩施設	その他	
20人	23人	6人	
34%	39%	10%	



【その他】

・金ヶ崎緑地と金崎宮の周遊の悪さの改善 ・駐車場
 ・にぎわいのある施設 ・24時間使用可能なトイレ・子供の遊び場

(3) 自由記載の内容と当市の考え方

① 計画案全体について

主な意見	市の考え方
<p>時間はかかるが、観光資源を作ることにお金をかけるべき。観光資源とは景観を指し、市内に桜を植樹して街全体を桜と海の街にするなど、景観の整備に重点を置くべき。</p>	<p>金ヶ崎周辺施設整備基本計画は、市民の皆様の御意見や要望をまとめた金ヶ崎周辺整備構想（平成24年度策定）に基づいた計画で、そのコンセプトである「敦賀ノスタルジアム」も引き継いだものとなっております。このため、基本的な考え方として、まずは市民に愛される場所となることを目指しております。</p>
<p>敦賀市の抱えている課題、観光客が求めているものに対する、解決策（回答）になっていない。 整備することが目的のように感じ、自治体が押し出したいものと観光客が求めているものとのギャップを感じる。 現時点では、「自治体が押し出したいもの」を整備するように見える。</p>	<p>また計画では、金ヶ崎周辺エリア一面を面として捉え、同エリアの整備コンセプトである敦賀ノスタルジアムを実現すると共に、人道の港ブランドの確立に向けてそれぞれの施設の魅力を磨き、金ヶ崎周辺を訪れること自体が目的となるような整備方針を掲げております。</p>
<p>ヨット、遊覧船等、リゾートと観光の総合的なレジャーゾーンとしての整備</p>	<p>また、民間活力の導入による飲食、物販機能の導入も位置づけられており、一歩ずつ、着実に整備を進め、金ヶ崎周辺が港の賑わい拠点となるよう取り組んでまいりたいと考えております。</p>
<p>日帰り旅行者にピントが合わされているように感じる。数日滞在する観光客にも満足できるような、景色とお風呂と食事を同時に楽しめるような設備と周囲の環境整備を今後盛り込んで欲しい。</p>	<p>また、民間活力の導入による飲食、物販機能の導入も位置づけられており、一歩ずつ、着実に整備を進め、金ヶ崎周辺が港の賑わい拠点となるよう取り組んでまいりたいと考えております。</p>
<p>新幹線開業の受け皿も考えると「市民の憩いの場所」ではなく、観光資源としての色合いを強くすべきと考える。市民の憩いの場所、くつろぎではなく、市民が知人や親戚などの訪問者を連れて行きたい、好奇心を満たす、感動する場所を目指すほうが良い。</p>	<p>また、民間活力の導入による飲食、物販機能の導入も位置づけられており、一歩ずつ、着実に整備を進め、金ヶ崎周辺が港の賑わい拠点となるよう取り組んでまいりたいと考えております。</p>
<p>市内の案内表示板の充実など、敦賀駅からのアクセスを向上するべき。</p>	<p>アクセスの向上につきましては、計画の基本方針において、広域への回遊性の向上に繋がるような整備を目指すこととしておりますので、金ヶ崎周辺の整備を進める中で、敦賀駅等からの更なるアクセス向上にも取り組んでまいりたいと考えております。</p>
<p>駅からのアクセス整備を要望。コミュニティバスやぐるっと周遊バスのコース、時間帯の本数を見直してはどうか。</p>	<p>アクセスの向上につきましては、計画の基本方針において、広域への回遊性の向上に繋がるような整備を目指すこととしておりますので、金ヶ崎周辺の整備を進める中で、敦賀駅等からの更なるアクセス向上にも取り組んでまいりたいと考えております。</p>

② 金ヶ崎周辺全体について

主な意見	市の考え方
<p>ムゼウム単体ではなく、金ヶ崎周辺エリア全体で収支均衡を図るなど、広い視野での施設の管理運営等を検討すべき。</p>	<p>施設の管理運営につきましては、既存の施設の他、鉄道遺産関連の施設や民間企業の誘致を視野に入れており、エリアマネジメントの観点から、金ヶ崎周辺エリア全体を1つの施設として捉え、民間活力導入エリアでの収益や、イベント等で得た収入を施設の管理経費に充当するなど、エリア全体で収支均衡を目指すことも考えられますので、個々の施設の収支計画とエリア全体の収支についても慎重に検討してまいりたいと考えております。</p>
<p>休憩を兼ねたセルフ形式の飲食スペースが欲しい。</p>	<p>計画では、金ヶ崎緑地周辺を憩う・くつろぐ区画としての機能を整備することとしており、その中で、民間資本の誘致を前提にカフェやショップ等の誘致の整備を図ることとしております。</p>
<p>ヨーロッパのお菓子、食べ物の販売やテイクアウト料理の提供</p>	
<p>鉄道線路の遊歩道、大正橋の復元、各ショップ店などを設ける。単なる休息場所のカフェでは観光客は来ないと思うので、緑地を観光ショップに解放するくらいが良い。</p>	
<p>敦賀全体に点在する他の観光拠点への回遊性を高めるなら、赤レンガ倉庫の隣の駐車場くらいに新ムゼウムを建設するほうがいい。金ヶ崎地域を1時間程度で見て回れるような位置関係が望ましい。</p>	<p>ムゼウムの移転については、金ヶ崎周辺施設整備計画策定委員会の中で、現在の場所を増築、復元する建築物4棟に移転、別の場所への新築について検討し、計画では復元する4棟に移転・拡充する方針が示されましたので、その検討結果を尊重したいと考えております。</p>
<p>金崎宮への回遊性の向上を図るべき。 現在赤レンガ倉庫には訪問記念スタンプが設置されているが、将来整備される金ヶ崎の他の施設にもスタンプを設置し、全ての施設でスタンプを集めると記念品がもらえるスタンプラリー的な企画があると面白いし、周遊するきっかけになる。</p>	<p>計画では、植栽やカラー舗装等によって、棧橋や船舶等を表現し、金崎宮や鷗ヶ崎から見下ろすと明治後期から昭和初期の敦賀港の姿がわかるような仕掛けを施すなど、来訪者が回遊したくなる整備を検討しております。 また、様々な取り組みを通じてエリア内の回遊性の向上に努めてまいります。</p>

③ 人道の港敦賀ムゼウムについて

主な意見	市の考え方
<p>敦賀ムゼウムで扱う資料は敦賀のみならず、我が国の財産ともいえ、公共が守るべき、行うべき事業だと思ふ。</p> <p>公共事業において施設の収支均衡を求める事例が多く見られるが、ムゼウムは収支均衡にばかり注力すると、人材の登用や、資料の充実等について中途半端な資料館になってしまい、将来を含め、施設、金ヶ崎の魅力が低下する気がする。</p> <p>収支均衡も大事だが、敦賀として守るべき財産であるものを観光誘客に活用するという視点も持って、本来の目的である敦賀の情報発信と観光振興に寄与していただくことを望む。</p>	<p>人道の港については、敦賀市のオンリーワンの地域資源であり、世界に通用する素材であると考えており、北陸新幹線敦賀開業を見据え、その受け皿の中核として、新ムゼウムの整備を考えております。</p> <p>金ヶ崎周辺施設整備計画策定委員会での議論を踏まえ、現ムゼウムの柱であるポーランド孤児とユダヤ難民それぞれについて、現在の展示内容を引き継ぐだけでなく、よりよい展示のあり方や、更なる資料の充実に向けて取り組んでいく必要があると考えております。</p> <p>計画では、八百津町などの関係自治体等と情報交換や連携、展示内容の拡充、わかりやすいレイアウト等に取り組むこととなっており、今後、展示、レイアウトの検討の際に具体的な内容について更に検討し、決定してまいります。</p> <p>敦賀と言えば、「人道の港敦賀ムゼウム」と言われるような拠点施設を目指してまいりますと考えております。</p>
<p>ムゼウムに関しては「人道の港」のコンセプトは共感できるが、人道という形の無いものは観光の目玉としては薄いように思う。形あるものに変換できないか、考える必要がある。りんごを名産にする（タオルやお菓子）のもいいが、港をもっとPRできたらと思う。敦賀でしか見られない何かを拡充してほしい。</p>	<p>新たなムゼウムが「人道の港」ブランドの中心的な役割を担いながら、金ヶ崎周辺エリアで市民が日常的に集い、遊び、学び、憩える場として整備していく中で様々な交流が生まれるようなエリアとなるよう計画を進めてまいりたいと考えております。</p>
<p>八百津町など他市と連携してはどうか。</p>	
<p>ポーランド孤児に関する資料や映像コンテンツの充実</p>	
<p>新ムゼウムには館内の資料展示等のレイアウト地図があるとよい。</p>	
<p>ポーランド、ユダヤ人に対する意識というものに実際に触れられるような、海外資本の店舗、人が集まるコミュニティとなる事（中華街、横須賀ドブ板通り等）が重要なので、会話、交流の場を設けて学ぶ事で、より一層地域の活性化を図れると思う。</p>	
<p>外国語の対応ができるガイドや接客等のおもてなしに対する人材育成の推進</p>	<p>今後、施設整備を進めながらおもてなしに対する人材育成についても努めてまいりたいと考えております。</p>

④ 鉄道遺産の活用について

主な意見	市の考え方
<p>敦賀港線は門司港レトロのような観光鉄道として新幹線開業に伴う第三セクターで復活させるべき。</p>	<p>敦賀駅から金ヶ崎周辺エリアまでの敦賀港線につきましては、本計画の検討対象範囲外であることから、本計画の策定において、具体的な活用方法について検討していません。</p>
<p>敦賀港線を活用した敦賀駅からの観光列車や二次交通としての列車の運行</p>	<p>観光列車等により、列車を運行させるには、鉄道事業法による免許の取得や、信号機及び踏切等の設置が必要となり、費用面も含め、多くの課題がございます。</p>
<p>港線を活用して、敦賀駅と敦賀港駅間に列車を走らせる。 1時間に1本程度、ダイヤに組み込むことが望ましいが、臨時便のような形でもよいと思う。 欧亜国際列車を復元するのもよいし、年に数回はSLを走らせるのもよい。</p>	<p>しかし、敦賀駅から金ヶ崎周辺エリアに観光客等に来ていただくための二次交通の充実等を図っていく必要がありますので、敦賀港線の活用も含めて、様々な方法で検討してまいりたいと考えております。</p>
<p>飲食と言う点で是非とも駅弁の販売を検討していただきたい。歴史ある敦賀の駅弁を赤レンガ倉庫等で販売してみてもどうか。</p>	<p>計画にあります、民間資本の誘致を前提としたカフェやショップ等の誘致と合わせて既存施設の魅力向上についても検討してまいりたいと考えております。</p>
<p>キハ28形と連結可能な気動車を新たに取得・活用する。</p>	<p>キハ28形気動車につきましては、敦賀ゆかりの鉄道車両として購入、展示しており、現在は、静態展示となっております。</p>
<p>キハ58を確保し、キハ28と2両で走るなど、キハ28の動態展示</p>	<p>将来的には、転車台の整備や将来的には、転車台の整備やSLの運行と合わせ、客車としての活用や自走による動態保存についても関係機関と協議してまいりたいと考えております。</p>
<p>SLの乗車、ミニSLの運転よりもAR体験などを重点においてPRしたらどうか。</p>	<p>AR体験については、現在も金ヶ崎緑地周辺にて3DCGで再現した昭和初期の敦賀港周辺の様子を仮想体験できるほか、古地図・古写真を閲覧する機能やスタンプラリー機能を備えたスマートフォン・タブレット端末用アプリを作製、運用しております。 今後も、実物の鉄道遺産の活用と合わせて様々な角度から鉄道と港の町敦賀をPRしてまいりたいと考えております。</p>

〈ご意見の内容〉